

岡山大学 MONTHLY DIGEST

vol. 119
2026.3



TOPICS

1

令和7年度岡山大学学位記授与式を挙



本学は3月25日、令和7年度学位記授与式を行い、学部生・大学院生ら計3,266人の門出を祝福しました。式では、那須保友学長が学部・研究科などの総代18人に学位記・修了証書を授与。

引き続き、学業成績と人物がともに優れた学生に授与する「岡山大学黒正賞」の受賞者15人を表彰し、代表者に賞状と記念品を贈りました。

那須学長は式辞で、「不易流行」の考え方を示し、変化の時代においても大切にすべき価値と挑戦し続ける姿勢の重要性を説きました。また、『孟子』の言葉などを引きながら、「ここから本当の『学び』が始まります」と、はなむけの言葉を贈りました。

卒業生を代表し歯学部富永彩花さん、修了生を代表し大学院ヘルスシステム統合科学研究科のDING XUEさんが答辞を述べました。

会場の外では、卒業生が家族や友人と記念撮影をするなど、別れを惜しむ姿が見られました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15213.html



TOPICS

2

高橋和教授らのグループが 第8回岡山テックプラングランプリで最優秀賞を受賞

岡山発ベンチャーの発掘と育成を目的としたビジネスプランコンテスト「第8回岡山テックプラングランプリ」が2月28日、岡山市内で開催され、本学学術研究院環境生命自然科学学域の高橋和教授らのグループ「SPACE SAFE」が最優秀賞を受賞しました。テーマは「宇宙機の帯電を可視化する超小型フォトニックセンサ」です。

「SPACE SAFE」が提案した技術は、宇宙機器故障の主因の一つである静電気放電を、シリコンフォトニクスを用いた光計測技術によって可視化しようとするものです。本学は2月19日の定例記者発表で高橋教授らの研究グループが、人工衛星の帯電を「光」で検知するシリコンフォトニックセンサを開発したことを発表しており、今回の受賞は、こうした研究成果の社会実装・事業化への展開を強く印象づけるものとなりました。

本学関係者が最優秀賞を含む複数の賞を受賞したことは、本学の研究成果の事業化可能性の高さを示すものであり、今後の大学発スタートアップ創出のさら

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15138.html



Pick up!

本学発ベンチャーと久米南町が連携 世代を超えた交流を通じて「暮らし」と「幸福」を考える体験型イベントを開催



本学と岡山県久米南町は、2月21日と28日の2日間、学生と地域住民が世代を超えて交流しながら、先端技術や地域の自然を体験する参加型イベントを開催しました。

このプロジェクトは、本学の学生に加え、本学発学生ベンチャーである株式会社タービン、株式会社Aqzooが運営に参画し、学生と地域住民が同じ目線で学び合うことで、地域における新たな交流の形を創出することを目指して企画したものです。

デジタル技術による思い出の継承と、自然の中での対話という二つの体験を通じて、参加者は地域における「暮らし」と「幸福」のあり方を多角的に見つめ直す貴重な機会を得ました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15131.html



TOPICS

3

第1回女性教授交流会を開催

3月3日、本学において初めてとなる「女性教授交流会」を開催しました。本学には現在66人の女性教授が在籍しており、最近教授に昇任した人から、長く教授として研究・教育に携わってきた人まで、さまざまなキャリアの教授が活躍しています。所属や研究分野も幅広く、多様な専門性で本学を支えています。

当日は20人の教授が参加し、田中共子文学部長(学術研究院社会文化学域・教授)の講演に続いて、全員の自己紹介からスタート。茶菓を囲んで4つのグループに分かれての談話会を30分程度行いました。アンケートでは「楽しかった」、「有意義だった」といった声が多くあり、第1回をあたためた雰囲気の中で終えることができました。

今回の交流会が、少しでもそのような“心の糸口”となれればと願っています。次回も、参加者にとって心地よく、実りある会となるよう準備を進めていきます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15158.html



TOPICS

4

2027年度入学生からの授業料適正化の方針案
～今後、ステークホルダーからのご意見を参考に適正化を進めます～

本学は、3月27日の定例記者発表において、学内の法定会議等を経て取りまとめた「2027年度入学生からの授業料適正化の方針案～今後、ステークホルダーからのご意見を参考に適正化を進めます～」を公開しました。

本学ではこれまで、外部資金の獲得、諸経費の精選などの自助努力を重ね、学生の教育のための費用の捻出に努めてきました。今回、これまでの検討を踏まえて、将来にわたり、学生のための教育費用を十分に確保し、教育・研究環境をさらに改善・向上させ、大学の国際化等を推進するため、順次、学年進行での授業料適正化を実施することとし、案を検討しました。なお、在学生は対象外です。

この財源をもとに、より充実した教育・研究環境の整備や国際化の推進、さらなる研究力・イノベーション創出強化等を行っていきます。

なお、留学生を含む学生が、本改定により経済的な負担から進学の機会ができるだけ損なわれないよう、さらに学生支援制度を拡充し、優秀かつ意欲ある学生が修学を継続できるよう支援します。

今後、ステークホルダーの皆さんと意見交換を行い、いただいたご意見を踏まえ、改めて授業料適正化(案)を提示し、審議する予定です。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id15222.html

PRESS
RELEASE原因不明の病気 遺伝子解析で説明へ
～岡山大学病院がIRUD拠点病院に～

岡山大学病院(病院長:前田嘉信)は、2026年4月1日付で国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)が推進する研究事業「未診断疾患イニシアチブ(IRUD: Initiative on Rare and Undiagnosed Diseases)」の拠点病院として新たに参加することになりました。IRUDは、長年原因が分からない希少疾患や難病の患者を対象に、全国の大学病院や研究機関が連携し、遺伝子解析などを用いて病気の原因解明を目指す研究プロジェクトです。

岡山大学病院が拠点病院として参画することで、中国・四国地域における未診断疾患の診療・研究体制が強化され、原因が分からないまま悩みを抱えてきた患者や家族に新たな診断の機会を提供できることが期待されています。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1518.html

